

振興トピックス

このコーナーでは、主に電源地域の地域活性化に向けたソフト事業の話題を取り上げています。今回は福井県敦賀市、山口県上関町、鹿児島県薩摩川内市、愛媛県伊方町の取り組みについて紹介します。



敦賀市シルバー人材センターが中心市街地に『おかずの達人 ろくべえ』をオープンしました。

福井県敦賀市 地図 A

敦賀市のシルバー人材センターは、平成29年9月1日、中心市街地の「舟溜まり地区」に、『おかずの達人 ろくべえ』をオープンしました。

この事業は、第4次経営戦略（平成28年度から5年間）を策定する中で、女性の創造性の発揮・意見を経営に活かす観点から、平成27年12月に女性役員を座長に、女性会員によるセンター事業検討

ワーキンググループを設置、本惣菜店事業が提案されました。しかし、創業するためには店舗の詮索と創業資金が必要となり、これを解消するために、敦賀市の「おもてなし商業エリア創出事業」と国の「地域就業機会創出・拡大事業」に応募し採択されました。店舗は中心市街地の「舟溜まり地区」に立地し、観光客も訪れる場所となっています。



「にしん寿司」など地元の特産品も販売

また、その店名のとおり『おかずの達人』をコンセプトに、「懐かしいお母さんの味」、「手づくり感」、「安心感（無添加）」のあるメニュー（晴明いなり・昆布巻き・海鮮コロッケ・だし巻き卵等）で、「行列のできるお店」を目指しています。



「懐かしいお母さんの味」が人気

周辺地区の若い世代から高齢者の市民を対象に、敦賀の食材による安全安心な手づくりメニューを提供するとともに、「舟溜まり地区」を訪れる観光客には、地元の「にしん寿司」や「東浦みかんみそ」、「さいみそ」、周辺地域の「三方うめ」といった特産品を販売し、周辺の店舗と連携しながら、その回遊性や滞在を促すことも考えています。

9月2日には、大型クルーズ客船『ダイヤモンドプリンセス号』が敦賀に寄港した際、ロシア人観光客をはじめ、市内を散策する外国人も多数来店しました。高齢者の皆さんが余暇を活用し、今まで培ってきた自慢の料理を現会員と一緒に創造し、働ける職場を提供し、シルバー会員が少しでも増員することも期待しています。

オープンから4ヶ月を迎えましたが、日々、新メニューを考案しながら運営しており、馴染みのお客様も徐々に増え、売り上げは堅調に推移しています。なお、営業時間は11時開店〜16時閉店（食材がなくなりしだい閉店）で、毎週水曜日が定休日となっています。敦賀を訪問した際には、ぜひ「懐かしいお母さんの味」を味わってみてください。

「朝鮮通信使船上関来航図」がユネスコ「世界の記憶」に登録

山口県上関町 地図 B

山口県上関町の超専寺には、「朝鮮通信使船上関来航図」という絵図が残っています。通信使船団の陣形や通信使を接待する港の警護、陸上の施設などが視覚的に表現され、入港の様子を描いた貴重な記録画となっています。町指定有形文化財で、本年10月31日に国連教育科学文化機関（ユネスコ）の「世界の記憶」（世界記憶遺産）に登録されることになった「朝鮮通信使に関する記録」のひとつです。

彼らは、韓国・釜山から海路で長崎・対馬に入り、瀬戸内海を航行後、関西から江戸へ向かいました。寄港地や宿場では學術、芸術、産業、文化など様々な分野で活発な交流がなされ、一行が通った国内12都府県には、当時の外交文書や絵巻などが残っています。

朝鮮通信使とは、豊臣秀吉の朝鮮出兵により途絶した国交を回復するために、江戸幕府の招聘により朝鮮国が徳川將軍家に派遣した外交使節団で、約200年の間に12回来日しています。

これらの記録を、朝鮮通信使にゆかりのある日本の自治体や民間団体でつくるNPO法人朝鮮通信使縁地連絡協

朝鮮通信使船上関来航図





かつては朝鮮通信使が寄港した上関の港

議会と韓国財団法人釜山文化財団が、「世界の記憶」への登録を申請していました。

上関町では、本年の登録決定を記念して11月3日に開催された同町の「愛・ランドフェア」に併せて絵図の実物を限定公開。実物を一目見ようと大勢の人たちが訪れました。来年11月には、上記NPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会が毎年各地で開催している「朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会」が、上関町で開催される予定です。

朝鮮通信使の古文書解読をしている上関町観光協会の安田和幸事務局長は「上関は江戸時代、幕府の上使や参勤交代の九州諸大名、朝鮮通信使、北前船などの往来で重要な港として活気を呈していた。『世界の記憶』登録をきっかけに、多くの方に訪れていただきたい」と話しています。

上関町に残るこの絵図は、風光明媚な瀬戸内海を臨みながら、異文化を受け入れ、日韓の平和の一助を担っていた上関町の貴重な「歴史遺産」となっています。

アンテナショップ「薩摩國」が戸越銀座商店街にオープン

鹿児島県薩摩川内市 地図

薩摩川内市の飲食品を販売する薩摩川内市のアンテナショップ「薩摩國」が、9月1日に東京都品川区の戸越銀座にオープンしました。戸越銀座商店街には約400店が軒を連ねており、その一画で、黒豚、キビナゴラーメン、焼酎などの薩摩川内市の幸・山の幸、約160品目を販売しています。「さつま揚げ」や「きびなごのから揚げ」

は、店内で実演販売されており、揚げ立てアツアツを味わうことができるため、食べ歩き客で賑わう戸越銀座にはぴったりな販売スタイルです。

運営は(株)薩摩川内市観光物産協会が行っています。同協会は、特産品の掘り起し、魅力化、6次産業化による商品開発などの役割を担ってきましたが、県外

伊方町のシンボル・佐田岬灯台が初点灯から100年目を迎えました

愛媛県伊方町 地図

日本で最も細長い半島である佐田岬半島。その先端に位置する佐田岬灯台は、航海の難所である豊予海峡を行き来する船を見守るため、大正7年(1918年)4月1日にその明かりが灯されました。そして今年、初点灯から100年目を迎える節目の年です。

佐田岬灯台が位置する伊方町では、灯台点灯100年に併せて、さまざまなプロモーションが行われました。これまでに、点灯100年を祝うイベント「佐田岬点灯100年祭」や佐田岬の自然・歴史文化と豊かな食を楽しむ日帰りバスツアー

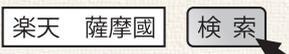
へのPR、販路拡大が課題でした。首都圏での物産展への出品や、小規模ショップへの短期出店などのトライアルを積み重ね、この度の「薩摩國」戸越銀座店のオープンに至りました。

同市は、市街部を悠々と流れる一級河川「川内川」、東シナ海に浮かぶ地形の変化の美しい甌島、豊富な温泉など、多種多様な自然環境に加え、8世紀には薩摩国の国府が置かれ、後の明治維新へ繋がる薩摩の礎を築

いた歴史と文化を有しています。東京に居ながらにして、話題沸騰中の鹿児島・薩摩川内自慢の産品を手にとってみてはいかがでしょうか。

また、7月にはWebショップ「薩摩國」も開設しており、アンテナショップとの相乗効果での産品PR、販路拡大が期待されます。

Webショップ「薩摩國」：
<https://www.rakuten.co.jp/ekiichi/>



薩摩川内の自慢の産品が勢揃い



手前は「薩摩國」。奥は福井県坂井市のアンテナショップ

「しあわせ岬周遊ツアー」、灯台麓の絶景スポットでのダイナーイベント「南予プレミアムダイニング」などが開催され、大好評となりました。

さらに、今年は、佐田岬灯台が国登録有形文化財に認定され、登録証授与式が開催される等、ますます盛り上がりを見せ



佐田岬灯台公園御籠島エリアがオープンしました



「南予プレミアムダイニング」